

令和3年度 紋別市立紋別中学校 改善プラン

生徒の実態

□全国学力・学習状況調査の結果から

- 国語の平均正答率は、全道平均よりも9.0ポイント下回っている。領域では「書くこと」18.0ポイント差、「読むこと」24.1ポイント差で、評価の観点では「関心・意欲・態度」が22.2ポイント差、問題形式の「記述式」が連動して22.2ポイント差と大きく下回っている。また、設問三四の「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ」の問題に対しては正答率が6.3%で、無回答49.2%であり、設問四四の「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」の問題においても正答率が全道平均よりも18.5ポイント低くなっており、『内容を捉え、自分の考えを書く力』が身につけていない状況にある。
来年度以降も、各教科での授業改善に取り組み、読む力やコミュニケーション能力を高めながら『表現力』をより一層高める取組を強化していく必要がある。
- 数学の平均正答率は、全道平均よりも11.0ポイント下回っている。領域では「数と式」19.0ポイント差、「図形」29.6ポイント差、「関数」15.1ポイント差、「資料の活用」10.2ポイント差と大きく下回っている。また、評価の観点では「数学的な見方や考え方が32.6ポイント差、問題形式の「記述式」も45.7ポイント差と危機的な状況にある。設問8(3)「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」の問題に対しての正答者がなく、無回答率は58.7%であった。設問9(1)「～の理由を説明する」が33.2ポイント差、6(2)「～成り立つ理由を説明することができる」も18.7ポイント差であり、付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明するなど課題を持つ状況である。合わせて、設問1の正答率が55.6%で全道と16.6ポイントの差があり「基礎基本の定着」が不足している生徒の割合が大きいことから、個に応じた学びを徹底することが急務である。
- 各教科の解答時間に対する設問では、「時間が余った」が全道より「国語」で18.9ポイント、「数学」で14.7ポイント少なく、「ややもしくは全く足りなかった」が「国語」で12.4ポイント「数学」で12.2ポイント多く、「国数」30%以上の生徒が「時間が足りない」と回答している。また、勉強が好きですかの設問では、「国語」17.2ポイント、「英語」で11.2ポイント低い、「数学」では7.3ポイント高くなっている。これに伴い、授業内容はよくわかりますかの設問も「国語」で7.4ポイント低く、「数学」11.8ポイント高くなっている。
- 普段、3時間以上ゲームをする生徒の割合が52.4%で全道よりも13ポイント高く、授業以外に2時間以上勉強している生徒は28.6%で全道よりも9.3%少ない。授業以外に教わり学ぶ機会が全道と比べ24%少ない状況である。

実践のポイント

学力向上にかかわる学校経営推進上の重点

教育課程の工夫

- 基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を目指す指導計画の作成・実施・評価・改善
※標準学力検査、チャレンジテストの活用
- 学力向上プランの作成
※教科別の学力向上策の実施・評価・改善
- 朝読書の充実を図る
- 授業時数の確保

学習指導の工夫

- 学習環境を作る（学習規律の定着等）
- 指導技術を磨く（ゴールを見通した授業）
- 指導方法を工夫する（主体的対話的な学習） ※説明時間の短縮 ※ロードマップ活用
- 補充学習の実施（定着を図る場面設定）
- 全国学力・学習状況調査やチャレンジテストの活用の充実

校内研修・組織の工夫

- 研修を中心とした授業研究による研究協議や校内研修を通して教職員の授業力向上
- クロームブックを活用した、「個別最適な学び授業」を目指した授業改善
- 生徒指導部と連携した教育相談の充実
※Q-U、アセス等の活用

家庭との連携

- 電子メディアの使用時間の制限
- 家庭学習の取組推進（宿題の指示）
- 個別相談等の実施
- 生活リズムチェックシートの活用
- 学校・学級だより等による情報発信
- タメバンの活用促進

改善目標

- 国語では、
 - ①朝読書・家読書の取組の継続と充実。(学校図書館司書との連携)
 - ②表現方法についての知識を身に付け、自分の見方や考え方を伝える能力の育成。
(具体策：協同学習による学び合いの時間の確保。表現力の育成)
 - ③複数の情報を整理し、自分の考えをまとめる(書く)能力の育成。
(具体策：必要な情報を集めノートに自分の考えをまとめて書く習慣を育成)の3点について留意し学習規律の徹底と授業改善を進めていく必要がある。
そこで、次の到達目標を設定する。全国学力・学習状況調査の国語において、全国平均との差を昨年度より1ポイント縮める。
- 数学では、
 - ①基礎的・基本的な学力の定着。
(繰り返し学習の徹底、小テスト・単元テストの日常的な実施、学び直し・補充的学習の実施、習熟度別学習の充実)
 - ②様々な事象を考察して関数の意味を理解させる。
 - ③事象の特徴を的確に捉え、数学的に説明できるようにする。
協働的、問題解決的な学習を取り入れ、生徒が自ら積極的に行う授業の展開が必要である。そこで、次の到達目標を設定する。全国学力・学習状況調査の数学において、全国平均との差を昨年度より1ポイント縮める。
- 個別最適な学びを継続させるための校内研修を実施し指導内容や指導方法等の改善を図る。

実施計画

- 全国学力・学習状況調査の調査結果について、学力向上係が中心となり、分析・検討を行い、学力向上プラン作成・見直しをする。全職員で共通理解を図り、効果的・効率的な指導体制について検討する。
- 数学において全学年習熟度別指導を取り入れ、生徒のつまづきを把握し、学習の充実を図る。また、TTによる少人数指導も全学年で行い、基礎・基本の定着を図る。
- 放課後や長期休業中に、補充的学習を取り組み、基礎・基本の定着とともに発展的な問題なども取り組み、個に応じた指導に努める。(タメベンの利用促進)
- 各教科担当においては指導内容・学習進度・学習評価に関する情報を教務主任と共有し、校内研修と連動した、学力の向上を図る教科指導の充実に努める。
- 全ての教科(教諭)において年1回以上の研究授業を実施し、「本校における学力向上の取組」の徹底を継続する。
- 全学級において「朝読書」の取組を推進するとともに、学校図書館の活用を促進して「活字に親しむ」習慣の定着に努める。
- 進路指導と関連させ、中学校卒業後の進路、そして将来の夢について考えさせ、自己実現のために学習の取組を充実させる。

評価方法

- R4 全国学力・学習状況調査の結果を分析する。
- 標準学力テスト(NRT・CRT)、学力テスト(文化協会)や定期テスト等の結果を分析する。
- 学力向上の取組に関する自己評価や生徒アンケート等を実施する。その結果を分析し、成果と課題の共通理解を図る。